

## 第 2 学年音楽科学習指導案

校内研究主題	基礎・基本の徹底と自己教育力の育成 —指導法・評価の改善と NC Time を通して—
音楽科研究主題	音楽による表現活動を主体的にできる生徒の育成

日 時 平成 14 年 10 月 10 日 (木) 5 校時  
 対 象 種市町立種市中学校 2 年 B 組  
 (男子 17 名 女子 18 名 計 35 名)  
 授業者 教諭 坂 本 恵理子

### 1 題材名及び教材曲

題材名 みんなで創る混声合唱～校内合唱コンクールへ向けて～  
 教材曲 「COSMOS」 ミマス 作詞・作曲  
 富澤裕 編曲

### 2 題材設定の位置づけ

#### (1) 教材観

今年度文化祭合唱コンクールの 2 学年課題曲である。もともと、アクアマリンという音楽ユニットが歌っていた曲であるが、“文部省(当時)国立天文台主催のスターウイーク(毎年 8 月 1～7 日)1999 年”のテーマソングに選ばれたのを機に、2000 年の 2 月に混声三部合唱曲として発表されたものである。とても優しく美しい旋律と、宇宙を題材としたスケールの大きい歌詞が魅力的である。

これまで勢いよく合唱することを得意としてきた 2 学年の生徒にとって、新しい曲調であり、表現の幅を広げていくのにふさわしい曲と考え、選曲した。

楽曲を分析してみると、まず星空をイメージさせるような美しい前奏のあと、ユニゾン(斉唱)によってこの曲のモチーフが歌われる。その後アルトは対旋律へ展開するが、ソプラノと男声によってモチーフは繰り返される(\*1)。そして短調へ転じながら、いわゆるサビに入る。それまでのフレーズと違い 5 小節という変則的なまとまりであり、作曲者の強い意図(メッセージ)を感じる(2)。サビの部分は初めの 4 小節はソプラノが主旋律を取り、後半 4 小節は男声によってリードされる。四分音符以上の長い音符が多く、ゆったりとした感じを与える(3)。ここまでを 1 番と考えることができる。間奏(4)を経て、2 番の始まりは曲の最初を想起させるモチーフがソプラノのみによって歌われ、ついでアルトの対旋律が加わる。シンプルではあるがかえって印象的である(5)。再び転調部 6 へ入るが、作りは 2 と同じであるものの、その動機が異なるため、違った印象を覚える。そして 2 番のサビは 2 度繰り返され、終結を予感させる(7)が、さらに、半音高くなりテンションを増して、再び繰り返され、終結を迎える(8)。

リズムや音程はさほど難しい曲ではないが、音域的に男声部に高音が求められ、指導上工夫を要している。

\* 数字は楽譜に記された段落数字。

#### (2) 生徒観

2 学年の生徒は、全体的に合唱が好きである。声を積極的に前へ出すことができる生徒も多い。1 年生の頃から合唱を褒めていただく機会が多かったし、生徒も自分たちの合唱に自信を持っている。だが、“まじめに練習し、大きな声で歌う”ということがゴールであり、それができている自分たちにはもう何もすることがない、と考えているような傾向もみえていた。

しかし、7 月に久慈地区中文連の合唱交流会に参加し、歌詞に気持ちを込めて表現することの楽しさを知り、

また、他校の演奏から自分達の演奏にはないものを見いだしたことで、もっと自他共に感動できるような合唱を創りあげてみたいと感じた生徒も多く、それが現在の合唱活動へのエネルギーとなっている。

2年B組の生徒は、女声はバランスもよく、声量も十分あり、大きな問題は特にない。一方男子生徒の中には、声を出すことに抵抗を感じている生徒や、声域が非常に低く、ほかの生徒と同様の音域の声が出せない生徒がおり、配慮している。また、音程を取ることが不得意な、いわゆる“調子外れ”の生徒もいる。そのような生徒については周りがカバーしているような状況である。

新人戦や中間テストを終えたばかりであり、まだ合唱へ気持ちが向かない生徒もいることが予想されるが、大切な学校行事と結びついていること、そして何よりその楽しさや達成感を味わわせることで、すべての生徒が合唱に向かっていくことができるようにしていきたい。

### (3) 指導観

前項でも述べたように、表現活動に対して意欲的な生徒であるが、これまでの題材においては表現の工夫といっても楽譜に明記されている強弱や速度、あるいは感覚的なものによるものだけでとどまっている。つまり、音楽の豊かさや美しさを感じ取ることや創造的に表現する能力については未熟であるため、この教材を使い、楽曲の構造的側面への理解を深め、感性的側面との関わりから表現の工夫をする力をつけていきたい。

構造的側面とは具体的には、強弱と曲の盛り上がりとの関わり、反復・変化・対照などの形式の働きとその効果、言葉の抑揚やアクセント・リズム・語感による効果、そして歌詞の内容や曲想の理解ということである。

実に多くのことを教えなければいけないようであるが、教えたい全ての項目は決して別々のものではなく、感性的なものも含めて全て密接に関係している。感情やイメージなどといった感性的なものの根拠を、曲の作りや歌詞の中に見いだすことが構造的側面をとらえることになる。

従って、“知識・理解”的に構造的なものを教えるのではなく、まずは“感じる”ことを促したり、あるいはそれを引き出したうえで、自分がなぜそう感じたのかということを経験的な角度でとらえさせ、曲の特徴をつかませるようにしていきたい。

この活動を通してとらえた構造的側面に基づいて表現の工夫をしたときに、知覚した構造がどのような演奏効果をもたらしているのか、子どもたちが“再確認”あるいは、“実感”できることが、ねらいである。

現在はこのような活動の初期段階であり、なかなか“実感”させられないかもしれないが、なんとなくでも感じられれば、今後の活動を通して、徐々に、感受し、表現の工夫をしていく力がついていくものと思われる。

生徒の“実感”が“感動”へと変わり、そしてさらには創造的な表現能力へ、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度へと発展していくように指導していきたい。

### (4) 学習指導要領との関連

#### 中心となる指導内容

A 表現(1)キ 音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などの働きを理解して表現を工夫すること。

#### 関連する指導内容

A 表現(1)ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい歌唱表現をすること。

イ 曲種に応じた発声により、美しい言葉の表現を工夫して歌うこと。

エ 声部の役割を生かし、全体の響きに調和させた合唱や合奏をすること。

ク 速度や強弱の働きによる曲想の変化を理解して表現を工夫すること。

B 鑑賞(1)ア 声や楽器の音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などの働きとそれらによって生み出される曲想とのかかわりを理解して、楽曲全体を味わって聴くこと。

### 3 題材の学習計画と学習目標（本時：第三時）

時	学習活動	学習目標
第一時	全体的な曲想の把握と音取り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現要素によって生み出される曲想の変化を理解して楽曲全体を聴き取っている。 鑑賞の能力</li> <li>・曲のよさや特質を味わい、曲にふさわしい歌唱表現をすることに意欲的である。 関心・意欲・態度</li> </ul>
第二時		<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲種に応じた発声で曲にふさわしい歌唱表現をすることに意欲的である。 関心・意欲・態度</li> <li>・各声部の役割や曲の仕組みを生かして合唱表現する技能を身につけている。 表現の技能</li> </ul>
第三時	歌唱表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己のイメージや感情の根拠を歌詞や曲の仕組みの中に見つけることに意欲的である。 関心・意欲・態度</li> <li>・強弱の働きを理解し、その効果を生かした表現の工夫をしている。 感受表現の工夫</li> <li>・リズムや旋律のかかわり合い、形式などの働きを理解しそれらを生かした表現を工夫している。 感受表現の工夫</li> </ul>
第四時		<ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏を客観的にとらえ、全体の響きの調和に関心を持ち、合唱表現をすることに意欲的である。 関心・意欲・態度</li> <li>・言葉の抑揚、アクセント、リズム、語感による特性などの美しい表現の仕方を感じとって歌唱表現を工夫している。 感受表現の工夫</li> <li>・各声部の役割、声部の構造、曲の仕組みを理解して合唱する技能を身につけている。 表現の技能</li> </ul>

### 4 本時の指導の構想

生徒は前時までの活動により、教材曲「COSMOS」についてのおおまかな曲の構造や曲想はつかんでいる。本時は曲の1番の部分（3まで）を用いて、いよいよそこへ表現の工夫付けをしていく（“命を与える”）。

まず、ウォーミングアップ後の学習課題の設定の中で、生徒が意欲をもてるように、工夫したい。

そして展開の中では、曲が盛り上がる部分として2を用い、強弱と曲の盛り上がりとの関わり、言葉の抑揚、語感による効果の理解と表現の工夫をさせたい。そしてそれを3の表現につなげていく。ただし、生徒が曲の盛り上がる部分を考えてときに、3の部分を選ぶこともあるかもしれない。しかし本時では感情の根拠を見つけようとするのが大切な段階であるから、その時は否定せず、2と3との順序を変えて指導する。

さらに1の部分を用いて、モチーフが繰り返されていることや旋律の重なり方を理解させ、表現を工夫させる。

本時の大きなねらいは、音楽の諸要素を理解し、表現の工夫へと結びつけることである。それが達成されているかどうかの教師側の評価は、わかったかどうかを聞くより、表現している様子を見た方が正確であると考え、ほとんど行動観察によって行う。

そして、生徒による自己評価も大きな判断材料である。合唱の題材の際には、“合唱取り組みカード”に、歌唱に関わるチェックリストを設け、チェックさせるとともに、今日の目標に関わる評価を記録させ、毎時間提出させている。そして、特に課題が達成できなかった生徒に対して、次の時間に支援するようにしている。

本時においては、この2つの判断材料から、諸要素を知覚し、表現する際にそれらを生かしていることがわかれば、達成していると評価したい。また、関心・意欲・態度の観点については、全ての活動において意欲は見取れると思うが、本時は特に、曲が盛り上がる部分を考える場面での様子を大切にしたいと考えている。

5 本時の学習評価

	音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	
題材評価規準	・自己のイメージや感情の根拠を歌詞や曲の仕組みの中に見つけることに意欲的である。	・強弱の働きを理解し、その効果を生かした表現の工夫をしている。	・リズムや旋律のかかわり合い、形式などの働きを理解しそれらを生かした表現を工夫している。
判断基準	A 曲が盛り上がりと感じる部分を見つけ、その結果や根拠を説明しようとしている。	A 強弱の働きを理解し、その効果を曲種に応じた発声や美しい言葉の表現とあわせて工夫している。	A リズムや旋律のかかわり合い、形式などの働きを他の声部も含めて十分に理解し、それらを生かした表現を工夫している。
	B 曲が盛り上がりと感じる部分を見つけることに意欲的である。	B 強弱の働きを理解し、その効果を生かした表現の工夫している。	B リズムや旋律のかかわり合い、形式などの働きを理解しそれらを生かした表現を工夫している。
	C(支援の手だて)構造的な視点から支援するとともに、実際の合唱を聞かせることで感覚を養う。	C(支援の手だて)具体的な強弱の具体的な表現方法を指導する。	C(支援の手だて)自分のパートのリズムや旋律を正確に歌唱できるように支援する。

6 本時の学習活動と支援活動（展開）

指導過程	学習内容	生徒の学習活動	教師の支援活動や留意点 (評価は )	備考
導入 10分	1 ウォーミングアップ 2 既習事項の確認 3 学習課題（今日の重点）の設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">「COSMOS」に命をあたえよう。</div>	「鉄腕アトム」にのせて肩たたき運動をする。  「COSMOS」を合唱する。  学習課題を把握する。	展開へ結びつけるため、タイミングをきちんと意識して体の向きを変えられるように支援する。  正しいリズムと音程で合唱させたい。  課題について説明する。 表現の工夫をすることで、より魅力的な合唱を創りあげられることを説明し、意欲を喚起する。	紙板書 (歌詞)
展開 30分	4 曲が盛り上がる（熱くなる）部分の確認 5 表現の工夫 1 6 表現の工夫 2 7 仕上げ	曲中で一番熱くなる感じがするのはどこか、考える。 ・ 2 百億年の歴史が～ ・ 3 光の音が～  2 を用いて、盛り上がる感じを出すための工夫をする。 ・ クレッシェンドの仕方の工夫 ・ 言葉の抑揚、アクセント、リズム、語感 3 の歌い方の工夫  1 の部分にも表現の工夫をする。 ・ モチーフの認識と表現の工夫 ・ 旋律が重なる様子	楽譜ではなく紙板書を用いて、感覚的なもので考えさせる。 パートごとに確認する。  ：行動観察  音楽的には不自然であるが、生徒にはわかりやすいように 2 を 4 つに分け、クレッシェンドのスタート地点を変えながら合唱し、自分達の感覚に合ったものを選択させる。 “百億”、“今も身体に”を用い、抑揚、アクセント、リズム、語感について工夫させる。また、パートによる現れ方の違いを理解させる。 3 については深入りせず、たっぴり歌うことを促す程度にとどめる。（次時に扱う） ：行動観察、演奏の聴取  2 や 3 の山場に対し、1 はふもとであり、1 も大切であることを認識させる。 出だしをハミングで歌わせ、モチーフを認識させる。 モチーフがどこで現れ、どのパートによって演奏されるかを理解させる。 フレーズごとに体の向きを変えながら歌わせる。（ウォーミングアップの応用） パートによる動きの違いから旋律の重なり方を理解させ、表現の工夫へと結びつける。 ：行動観察、演奏の聴取  本時のまとめであることを確認する。	紙板書 (歌詞)  紙板書
終末 10分	8 本時のまとめと次時の予告	本時の自己評価をカードに記入する。 自己評価を発表する。 次時の内容を知る。	できるだけ具体的に記入するよう指示する。（机間指導） 課題に対する評価と今回わかったことについて、数名に発表させる。 、 、 ：自己評価	MDレコーダー  取り組みカード